

横手市公共施設再配置に関する市民検討委員会

第2回 検討委員会

と き 令和2年7月2日（火）

午後7時から

ところ 横手市役所 条里南庁舎 講堂

次 第

1. 開会

2. 前回からの質問事項について … 資料は当日配付

3. 本日の目的と流れについて … 資料1（※前回の資料4）

4. 案件

（1）公共施設の配置や施設概要について … 資料2、資料3

（2）広域的な視点からの需要と供給の比較 … 資料4

（3）再編の方向性の検討 … 資料1～資料4

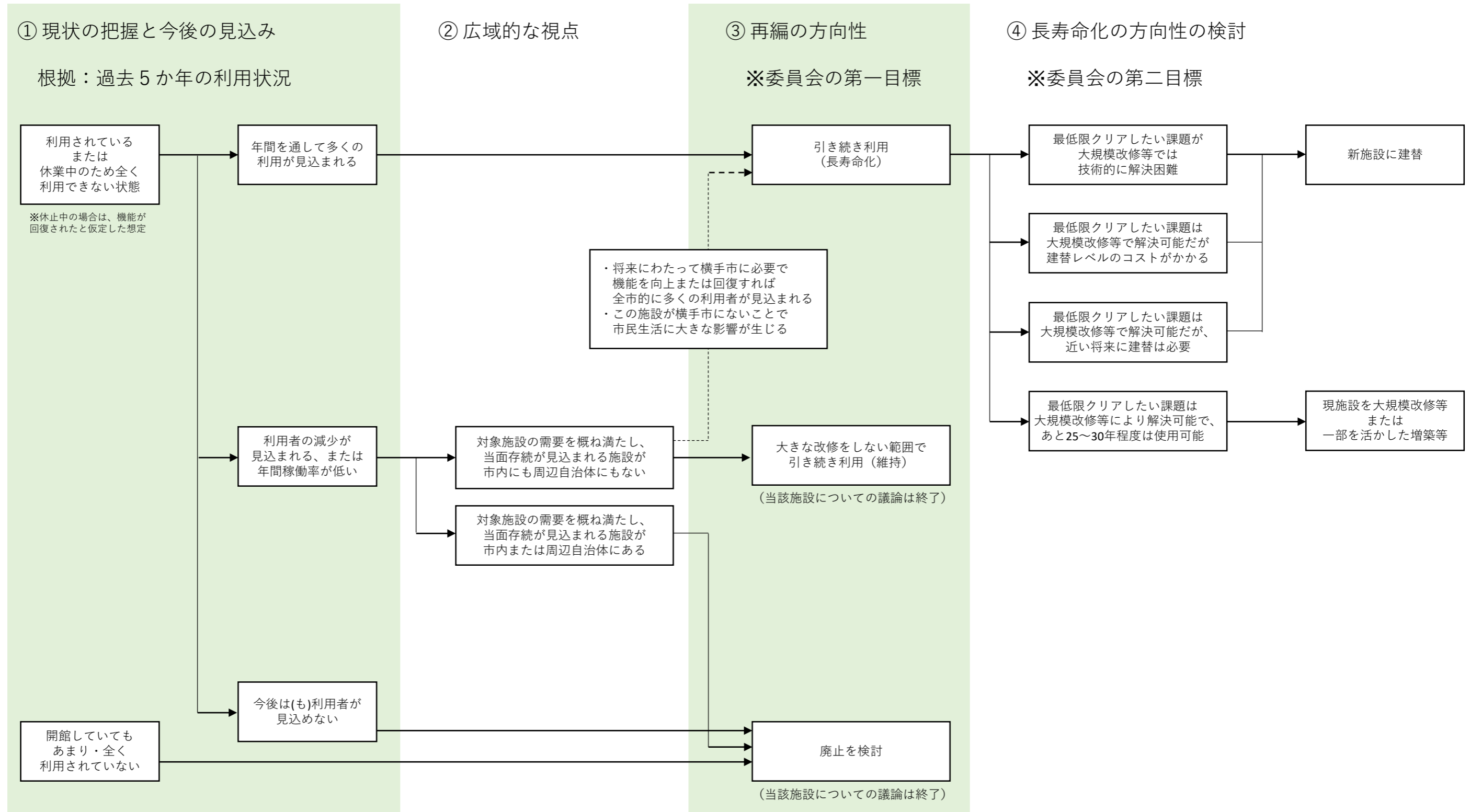
（4）その他

5. 閉会

■ 大型公共施設の再編方針検討のロードマップ

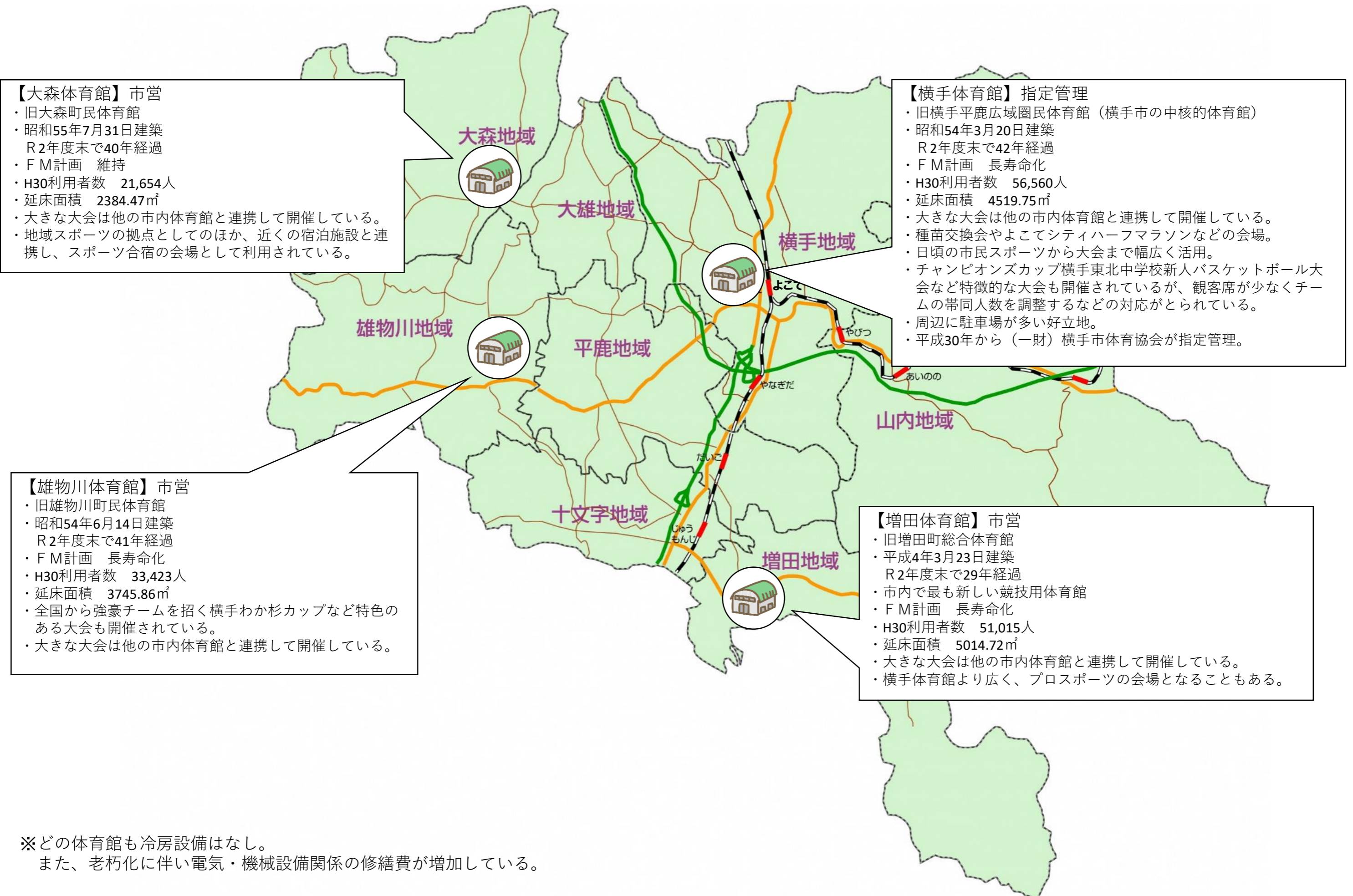
第1回 市の公共施設再編の考え方や市の財政状況などについて【議論を進める上で共通理解が必要な重要事項】

第2回
以降

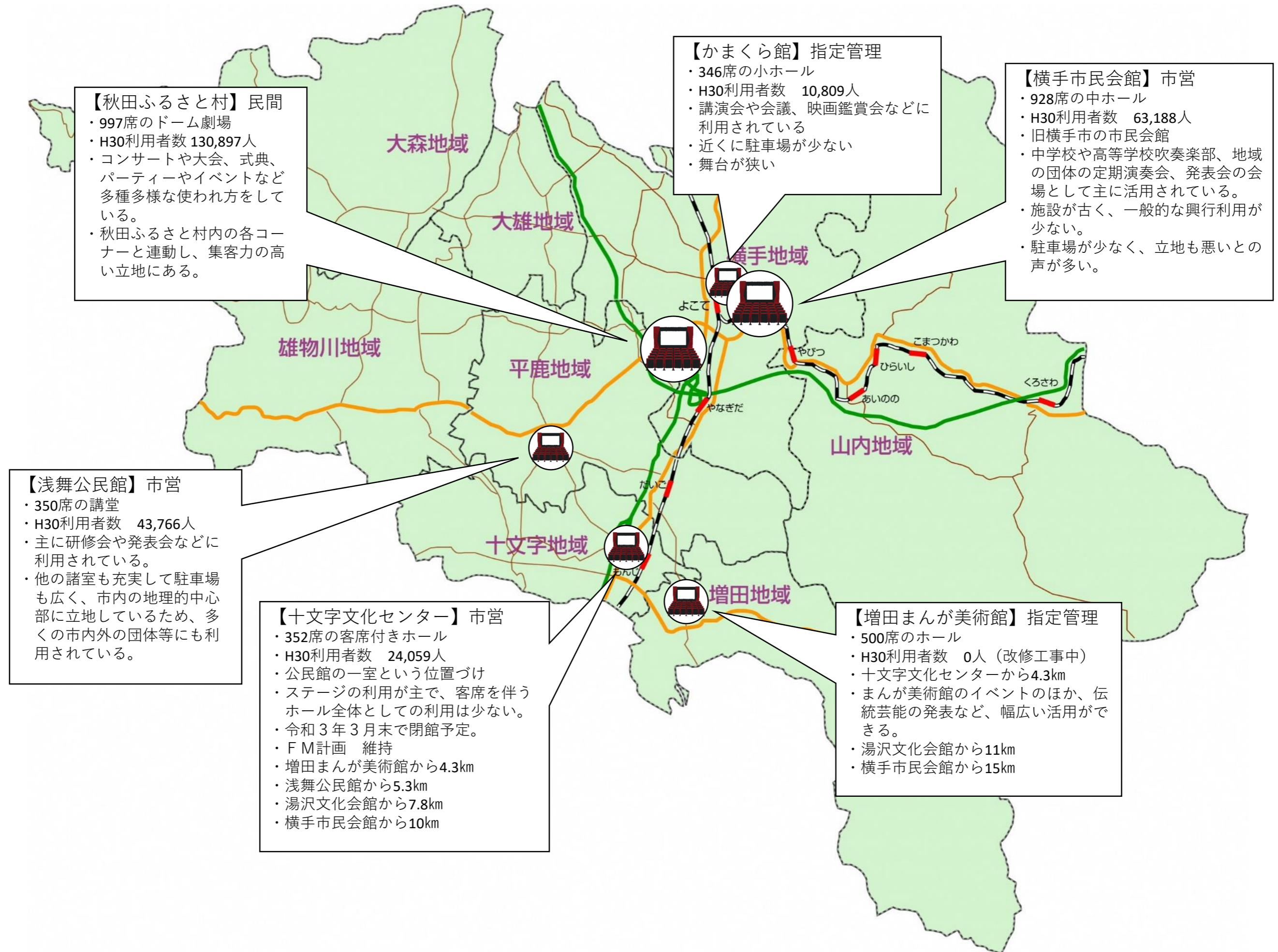


年度後半 それぞれの方向性に基づいて施設の基本構想（大まかな規模や機能など）を検討 → 詳細はR3年度に基本計画の中で検討委員会の答申を受け市が長寿命化と決定した施設について専門の検討機関を組織

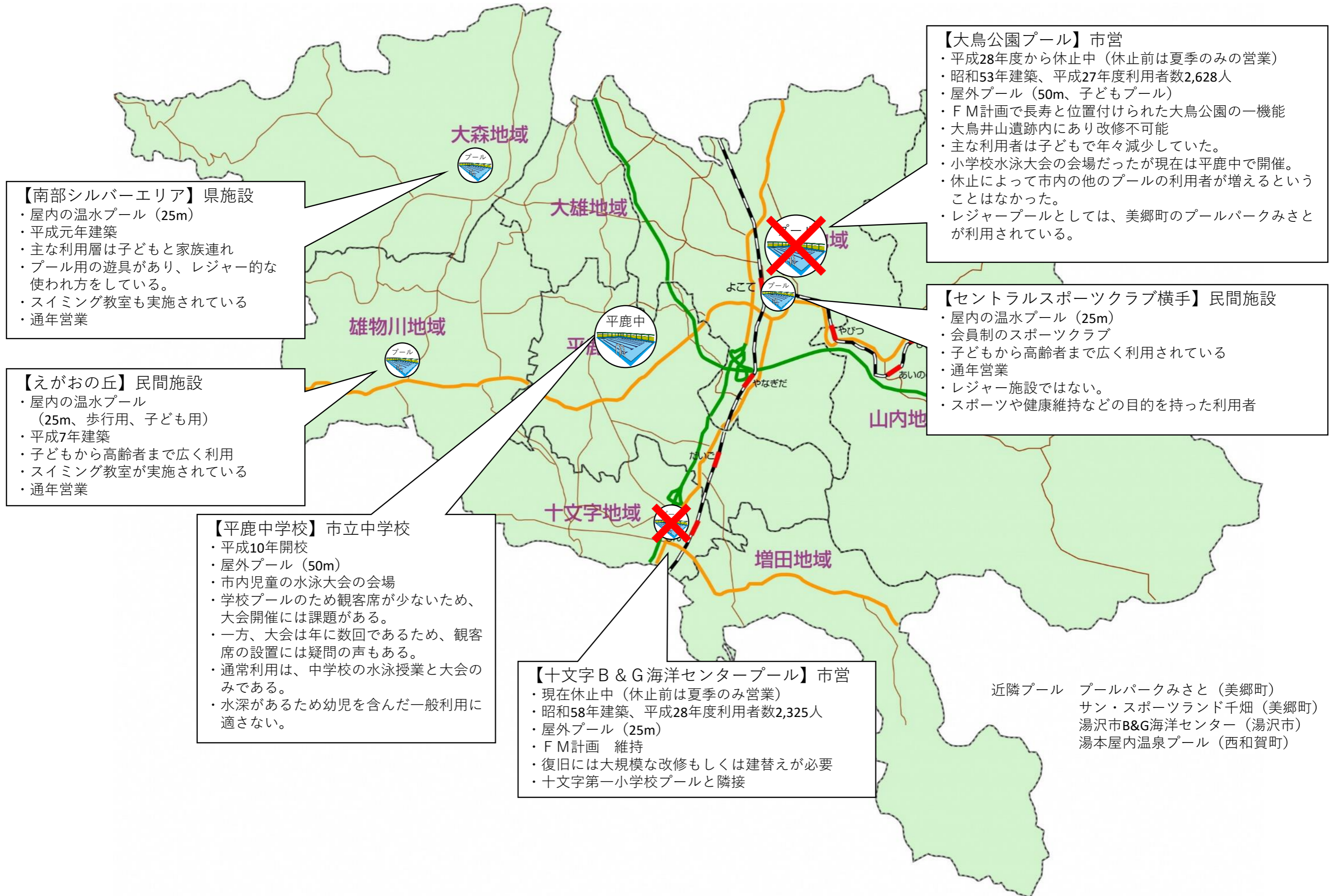
【公共施設の配置図】① 競技用体育館



【公共施設の配置図】② 市民ホール



【公共施設等の配置図】③ プール



【南部シルバーエリア】 県施設

- ・屋内の温水プール (25m)
- ・平成元年建築
- ・主な利用層は子どもと家族連れ
- ・プール用の遊具があり、レジャー的な使われ方をしている。
- ・スイミング教室も実施されている
- ・通年営業

【えがおの丘】 民間施設

- ・屋内の温水プール (25m、歩行用、子ども用)
- ・平成7年建築
- ・子どもから高齢者まで広く利用
- ・スイミング教室が実施されている
- ・通年営業

【平鹿中学校】 市立中学校

- ・平成10年開校
- ・屋外プール (50m)
- ・市内児童の水泳大会の会場
- ・学校プールのため観客席が少ないため、大会開催には課題がある。
- ・一方、大会は年に数回であるため、観客席の設置には疑問の声もある。
- ・通常利用は、中学校の水泳授業と大会のみである。
- ・水深があるため幼児を含んだ一般利用に適さない。

【十文字 B & G 海洋センタープール】 市営

- ・現在休止中 (休止前は夏季のみ営業)
- ・昭和58年建築、平成28年度利用者数2,325人
- ・屋外プール (25m)
- ・F M計画 維持
- ・復旧には大規模な改修もしくは建替えが必要
- ・十文字第一小学校プールと隣接

【大鳥公園プール】 市営

- ・平成28年度から休止中 (休止前は夏季のみの営業)
- ・昭和53年建築、平成27年度利用者数2,628人
- ・屋外プール (50m、子どもプール)
- ・F M計画で長寿と位置付けられた大鳥公園の一機能
- ・大鳥井山遺跡内にあり改修不可能
- ・主な利用者は子どもで年々減少していた。
- ・小学校水泳大会の会場だったが現在は平鹿中で開催。
- ・休止によって市内の他のプールの利用が増えるということはない。
- ・レジャープールとしては、美郷町のプールパークみさとが利用されている。

【セントラルスポーツクラブ横手】 民間施設

- ・屋内の温水プール (25m)
- ・会員制のスポーツクラブ
- ・子どもから高齢者まで広く利用されている
- ・通年営業
- ・レジャー施設ではない。
- ・スポーツや健康維持などの目的を持った利用者

近隣プール

- ・プールパークみさと (美郷町)
- ・サン・スポーツランド千畑 (美郷町)
- ・湯沢市B&G海洋センター (湯沢市)
- ・湯本屋内温泉プール (西和賀町)

【施設概要】① 横手体育館

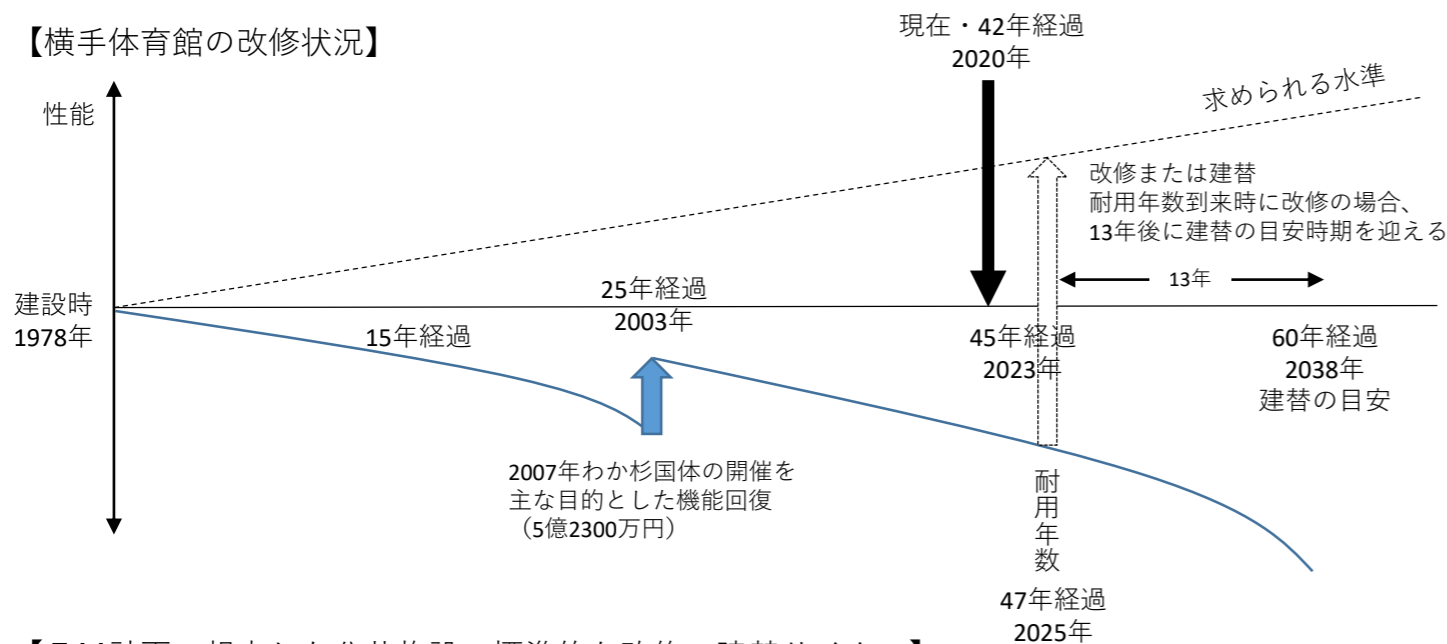
建築年度：昭和53年（1978年）
 延床面積：4,519.75㎡
 主な諸室：大体育室1,512㎡、中体育室448㎡、
 小体育室192㎡、格技場156㎡
 観客席数：大体育室336席
 開館時間：9：00～22：00
 建設費用：7億1649万円（建設当時）
 耐震：旧耐震（大・中体育室が特定天井）

【現施設の主な課題（求められる水準）】

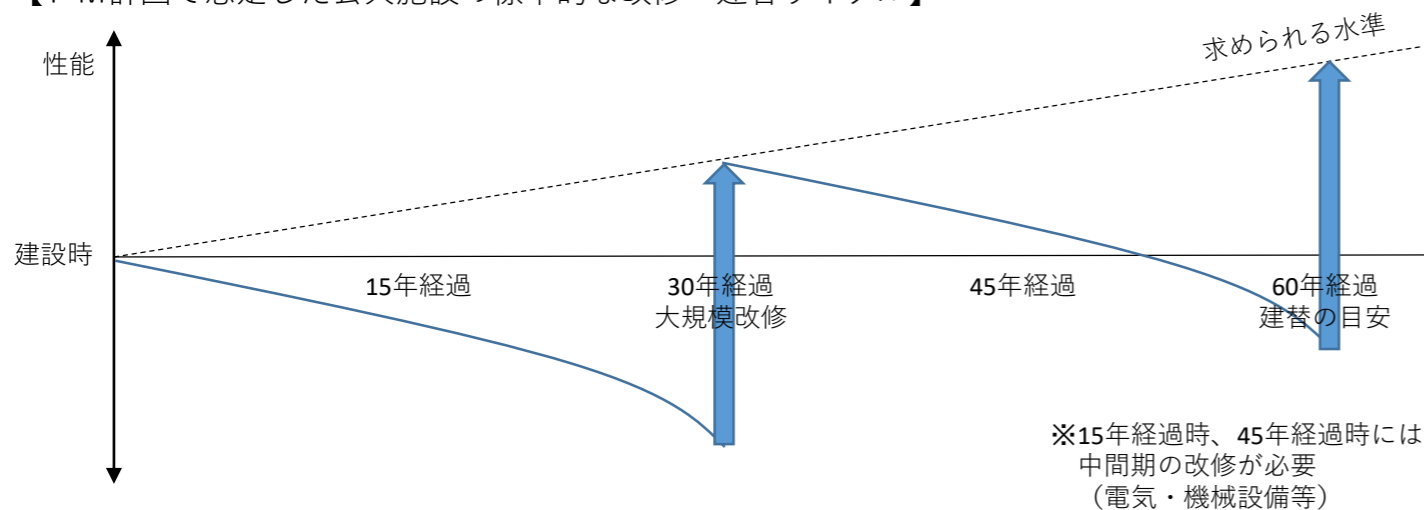
- ・観客席が圧倒的に不足（潜在的な利用者の存在）
- ・空調設備がない
- ・耐震基準を満たしていない
- ・電気設備、機械設備等の更新が必要
- ・トイレが古く、数も不足している
- ・諸室や動線が興行やイベント等に向いていない

市の計画	計画における方針等
横手市財産経営推進計画（FM計画） 計画期間：2016～2030年	【長寿命化】大規模改修、または建て替えにより施設機能を存続させる。多機能化、複合化、人口規模や利用状況などによる見直しを行う。
横手市スポーツ推進計画 計画期間：2018～2020年	耐用年数が残り10年未満となることから、その役割を引き継ぎ、市民の健康増進等につながる新たな多機能体育館の建設を目指します。

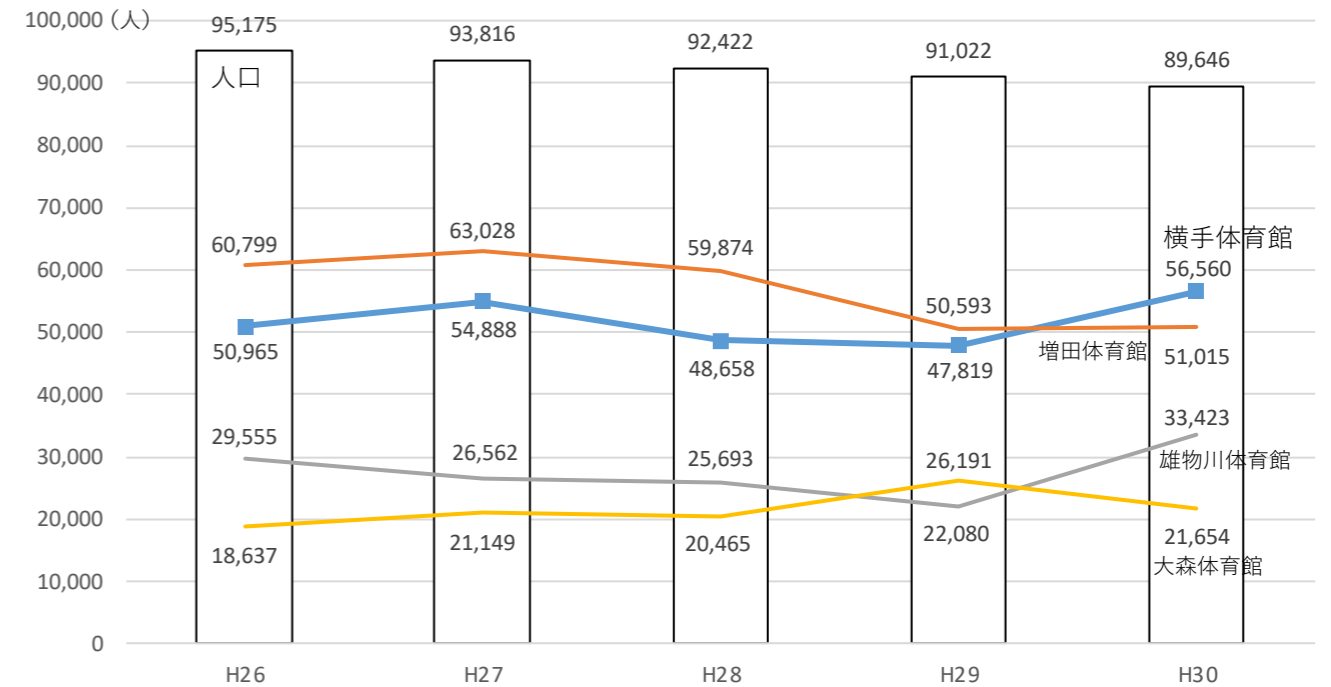
【横手体育館の改修状況】



【FM計画で想定した公共施設の標準的な改修・建替サイクル】



【横手市の人口と市内主要体育館の利用者数の推移】



【横手体育館の維持管理費】

〔年間維持費（平成29年度）〕

① 4298万9532円

内訳	金額(円)
維持管理経費	29,555,157
維持管理にかかる人件費	13,434,375
合計	42,989,532

※H29年度は大きな修繕なし

〔使用料収入（平成29年度）〕

② 276万3680円

〔市民1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 市の人口

442円

〔利用者1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 利用者数

841円

【算出基礎】

H30年度の途中から横手武道館と一括で指定管理者制度を導入したため
 H29年度数値を算出基礎とした。

※指定管理者制度導入検討シートより

【周辺施設の状況】

建物が建てられてから60年経過で取り壊すこととすると、2040年には増田体育館と湯沢市総合体育館だけが残る。

施設名	竣工年	2040年(右は人口)	
横手体育館	1979		58,985
増田体育館	1992	○	
雄物川体育館	1979		
大森体育館	1980		27,145
湯沢市総合体育館	1993	○	
湯沢市体育センター	1978		
稲川体育館	1980		8,585
羽後総合体育館	1974		
(東成瀬村)			1,468
合計			96,183



【施設概要】② 横手市民会館

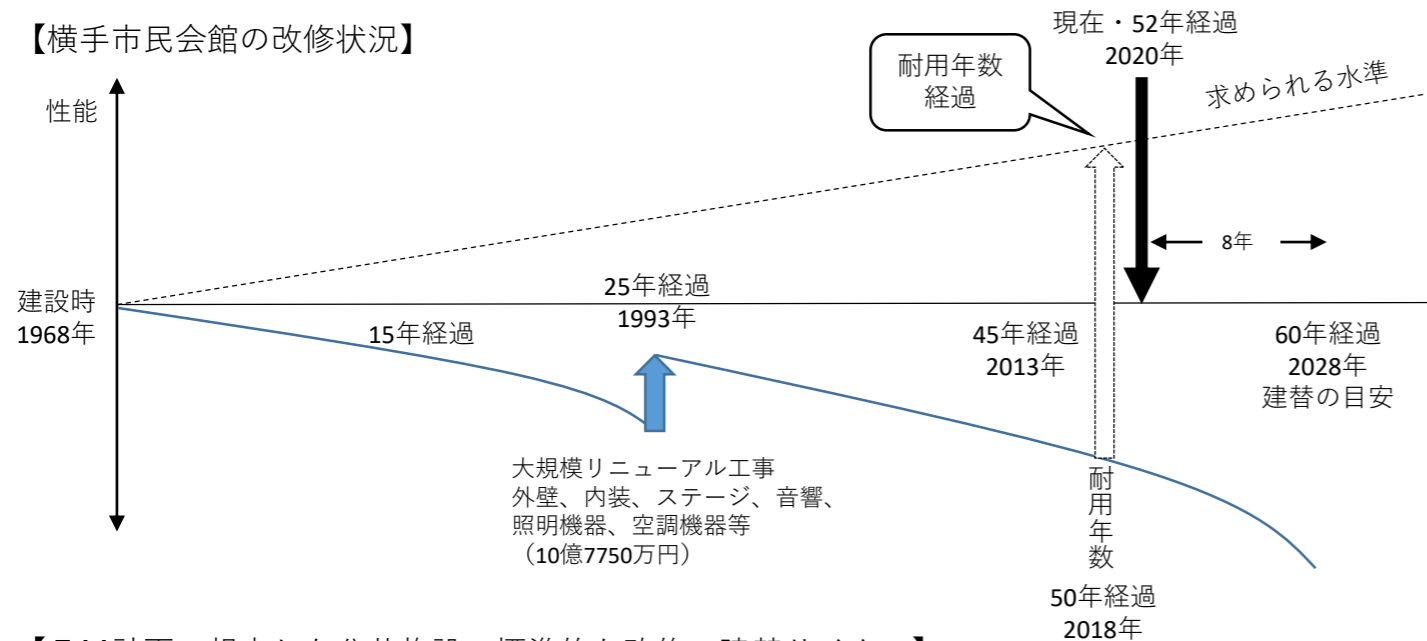
建築年度：昭和43年（1968年）
 延床面積：3,182.025㎡
 主な諸室：ホール1045㎡、会議室23㎡
 リハーサル室A 113㎡・B 100㎡
 和室39㎡
 観客席数：928席（車いすスペース2席）
 開館時間：9：00～22：00
 取得費用：1億8516万円（建設当時）
 耐震：旧耐震（ホールが特定天井）

【現施設の主な課題（求められる水準）】

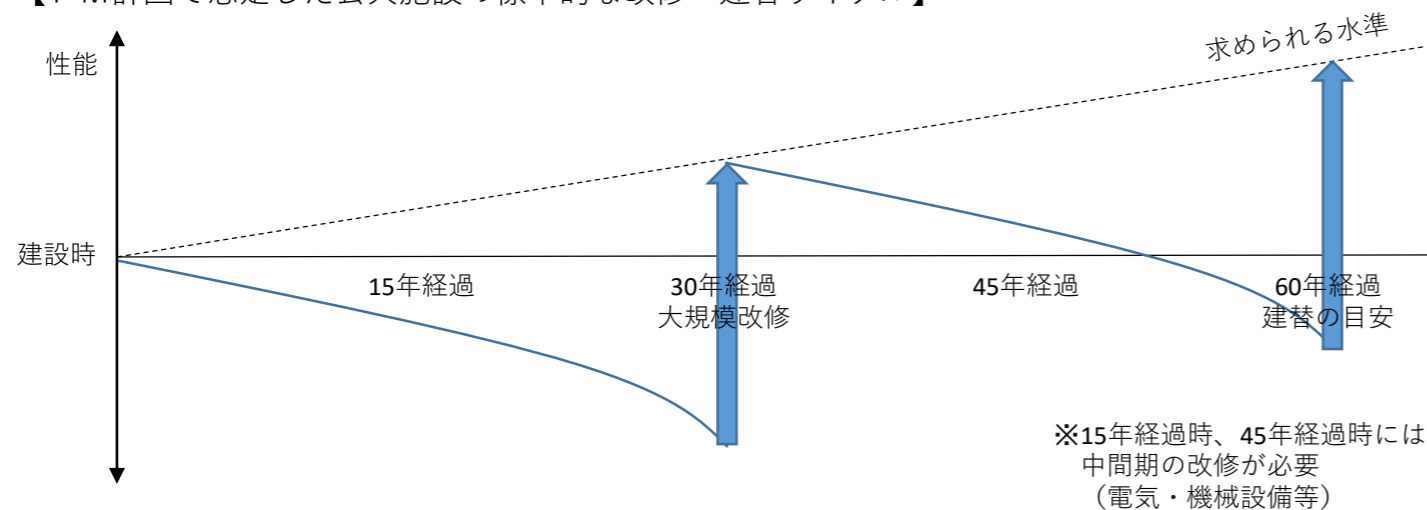
- ・耐用年数を経過し、全体的に老朽化が進んでいる
- ・電気設備、機械設備等の更新が必要
- ・駐車場が不足（敷地内190台・第二80台）
- ・ホールが吊天井で改修が必要（約4.5億円）
- ・浄化槽の更新や雨水排水管などの更新も必要

市の計画	計画における方針等
横手市財産経営推進計画（FM計画） 計画期間：2016～2030年	【維持】機能維持。改修、建替えまたは大きな支出を伴わない範囲での維持とする。老朽化し、改修、建替えしなければ維持困難となった場合は廃止、解体対象とする。
横手市生涯学習推進計画 計画期間：2017～2021年	社会教育施設等の整備に当たっては、「横手市財産経営推進計画」に基づき行います。主要施設の老朽化に対して、耐震化など既存施設の改修や改築を進めます。

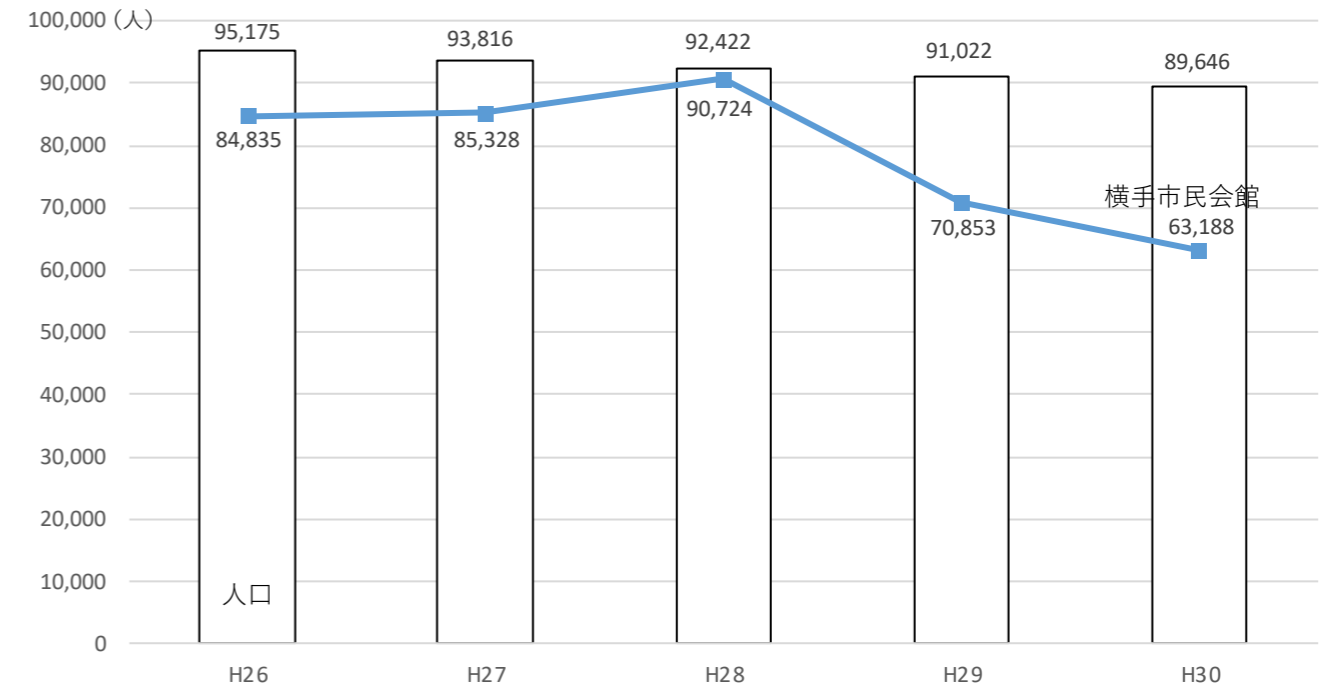
【横手市民会館の改修状況】



【FM計画で想定した公共施設の標準的な改修・建替サイクル】



【横手市の人口と横手市民会館の利用者数の推移】



【横手市民会館の維持管理費】

〔年間維持費（平成30年度）〕

① 3779万2千円

内訳	金額(円)
維持管理経費	24,442,000
維持管理にかかる人件費	13,350,000
合計	37,792,000

※グランドピアノ修繕 362万5千円を除く

〔使用料収入（平成30年度）〕

② 778万4千円

〔市民1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 市の人口

335円

〔利用者1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 利用者数

475円

【算出基礎】

H30年度の当初予算ベース。
 途中退職者がいるなど、決算額では
 実際の必要額が得られないため。

【周辺施設の状況】

建物が建てられてから60年経過で取り壊すこととすると、2040年には観客席が約1000席を超える施設が秋田ふるさと村ドーム劇場のみとなる。
 またその時点でドーム劇場も建設から46年が経過することとなる。

施設名	竣工年	2040年(右は人口)
横手市民会館(928席)	1968	
かまくら館(346席)	1991	○
増田まんが美術館(500席)	1995	○
浅舞公民館(350席)	1989	○
十文字文化センター(352席)	1971	
秋田ふるさと村(997席)	1994	○
湯沢文化会館(1203+400席)	1979	
雄勝文化会館(400席)	1996	○
美里音(羽後・350席)	2010	○
ゆるるん(東成瀬・200席)	2006	○
合計		58,985
		27,145
		8,585
		1,468
		96,183

【参考】

大曲市民会館（1004席+482席、1994年）
 新文化施設（秋田市、2000席+800席、2021年(予)）

【施設概要】③ 大鳥公園プール

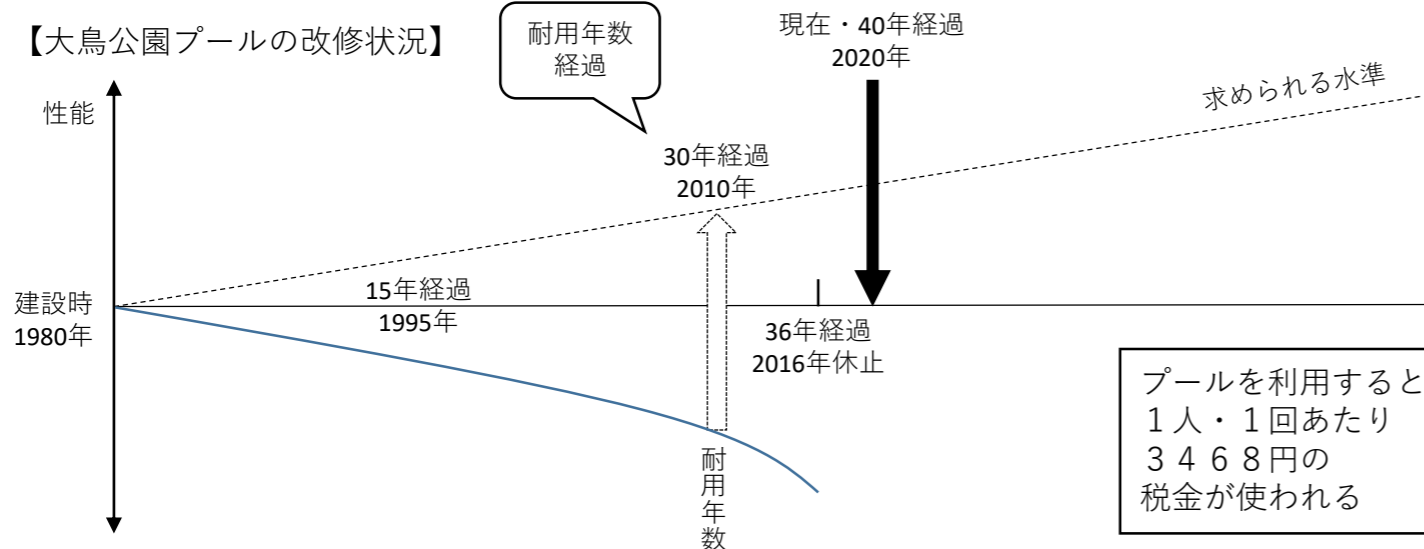
建築年度：昭和55年（1980年）
 主な諸室：50mプール、こどもプール
 観客席数：50m×5段のベンチ
 開館時間：平成28年度から休止中
 建設費用：2億758万円（建設当時）

【現施設の主な課題（求められる水準）】
 ・地下配水管の水漏れにより平成28年度から休止中
 ・大鳥居山遺跡の中にあり現施設の改修ができない
 ・施設の解体に向け、アスベスト分析や実施設計を実施予定（予算360万円）

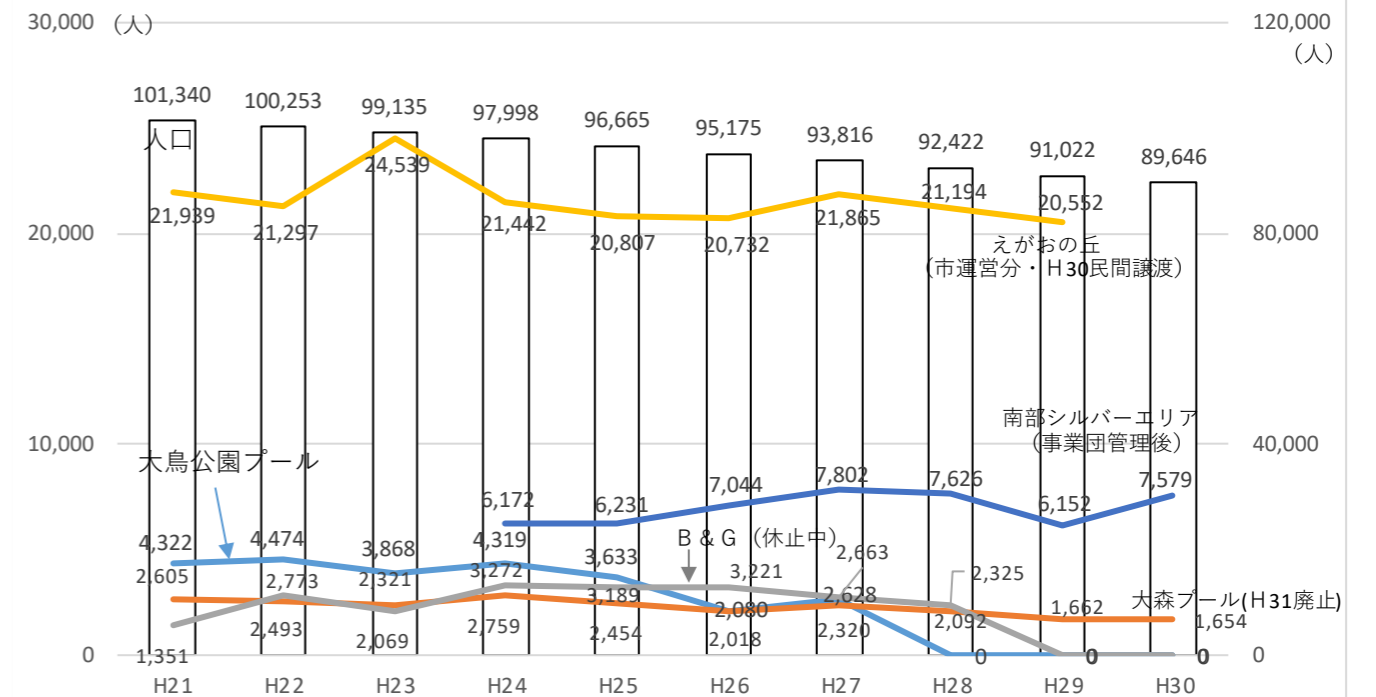
市の計画	計画における方針等
横手市財産経営推進計画（FM計画） 計画期間：2016～2030年	【「長寿命化」と位置付けられた大鳥公園の一機能】大規模改修、または建て替えにより施設機能を存続させる。多機能化、複合化、人口規模や利用状況などによる見直しを行う。
横手市スポーツ推進計画 計画期間：2018～2020年	改修が困難なため、機能を引き継いだ整備を検討する。通年利用できるプールは健康増進やリハビリに有効であることから、市民がプールを利用する機会を確保することを目指す。



【大鳥公園プールの改修状況】



【横手市の人口と市内プールの利用者数の推移】



【大鳥公園プールの維持管理費】

〔年間維持費（平成27年度）〕

① **948万8477円**

内訳	金額(円)
維持管理経費	5,199,858
維持管理にかかる人件費	4,288,619
合計	9,488,477

※H29年度は大きな修繕なし

〔使用料収入（平成27年度）〕

② **37万4570円**

〔市民1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 市の人口 (93,816人)
97円

〔利用者1人あたりに換算した支出額〕
 (①-②) ÷ 利用者数 (2628人)
3468円

【算出基礎】施設カルテ
 営業最終年度であるH27実績。
 大鳥公園関連予算H27実績からH29実績を引いた額を採用。
 H28は関連予算の一部執行あり。

【周辺施設の状況】

【競技用プール】

県内の競技用の公認プールは県央の3か所のみ。
 ・県立総合プール（屋内/50m、25m、飛込）
 ・由利本荘市プール（屋外/50m）
 ・五城目町屋内温水プール（屋内/25m）

【屋内通年・一般プール】 営業中のみ

市町村	施設名	形態
横手市	セントラルスポーツクラブ横手	会員制
横手市	南部シルバーエリア	一般
横手市	雄物川温泉えがの丘	一般
美郷町	サン・スポーツランド千畑	一般
湯沢市	秋田アスレティッククラブ 湯沢校	会員制、一般
大仙市	秋田アスレティッククラブ 大曲校	会員制、一般

【夏季のみ・一般プール】

市町村	施設名	形態
美郷町	プールパークみさと	一般
湯沢市	湯沢市B & G海洋センター	一般
大仙市	大仙市民プール	一般
大仙市	大仙市B & G海洋センター（神岡）	一般

【市内学校施設】各小学校25m、平鹿中学校50m

【広域的な視点からの需要と共有の比較】① 競技用体育館

横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村を対象に、機械的に築60年で建物を除却するとした場合の見通し。

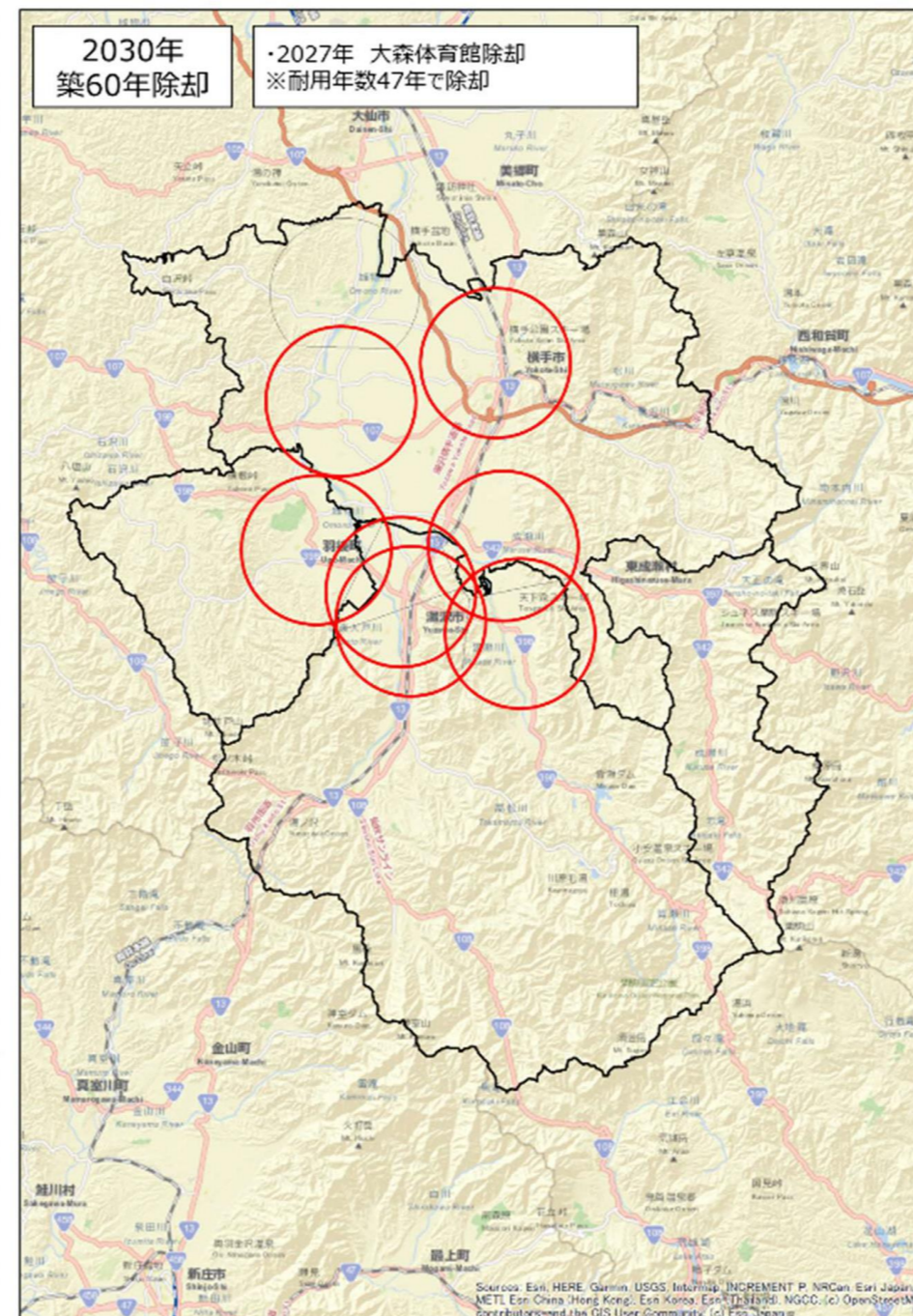
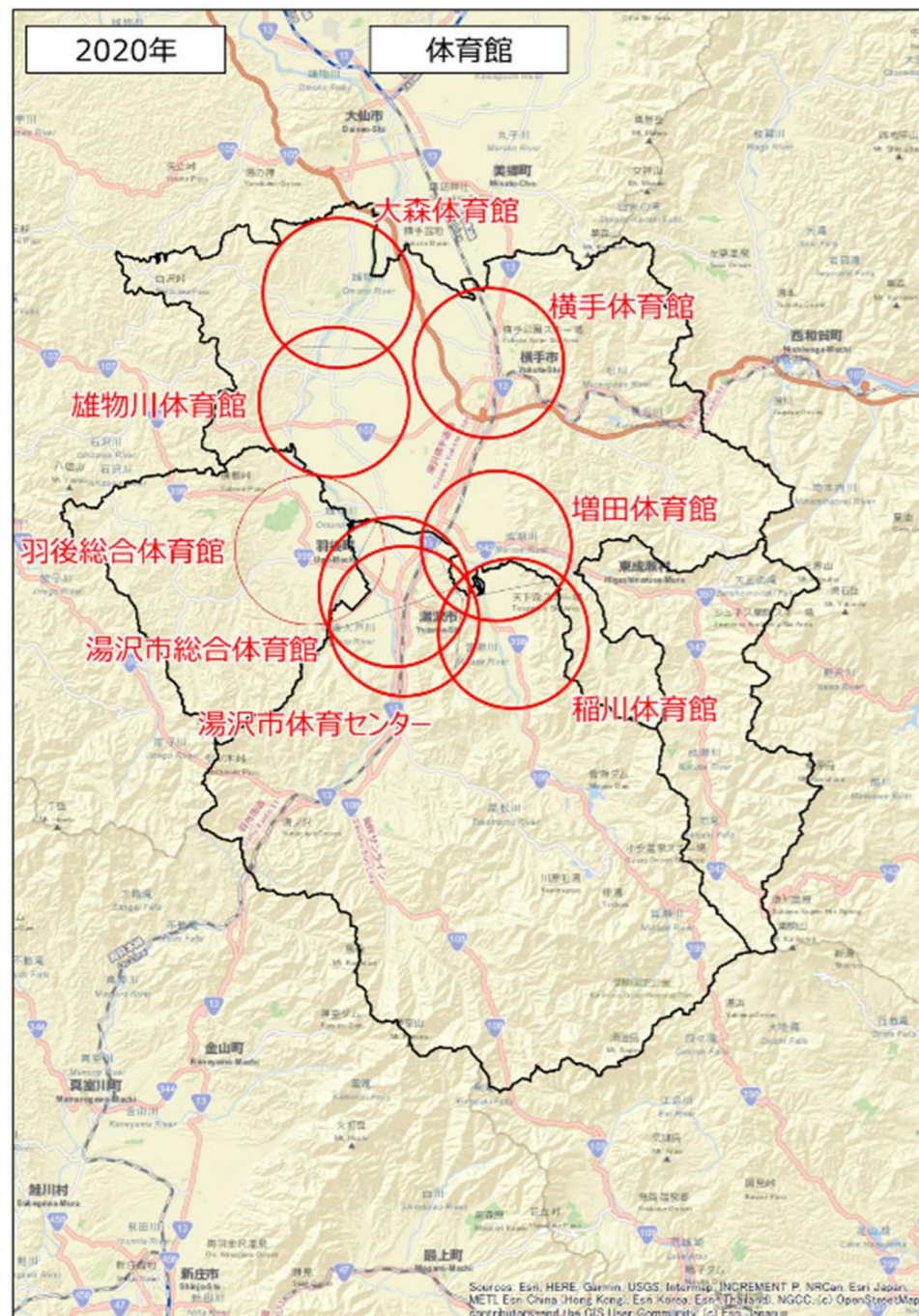
2020～2030年で1施設、2030年～2040年で5施設が除却されるとすると、市町村間の相互利用を行っても、2040年時点で年間9.6万人の利用者への供給不足が想定される。

要検討課題 体育館の存続（建替え整備）

需要と供給の比較

	2020年時点		2030年時点			2040年時点		
	利用者数	対人口利用率	利用者数	2020年度利用率で積算	利用できない住民数(供給不足)	利用者数	2020年度利用率で積算	利用できない住民数(供給不足)
体育館	289,099	0.81%	203,892	219,810	15,918	68,242	164,813	96,571
4市町村人口(15-74歳)	99,686		75,794			56,830		

○体育館（商圏：5km）



【広域的な視点からの需要と共有の比較】② 文化施設（広域）

横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村を対象に、機械的に築60年で建物を除却するとした場合の見通し。

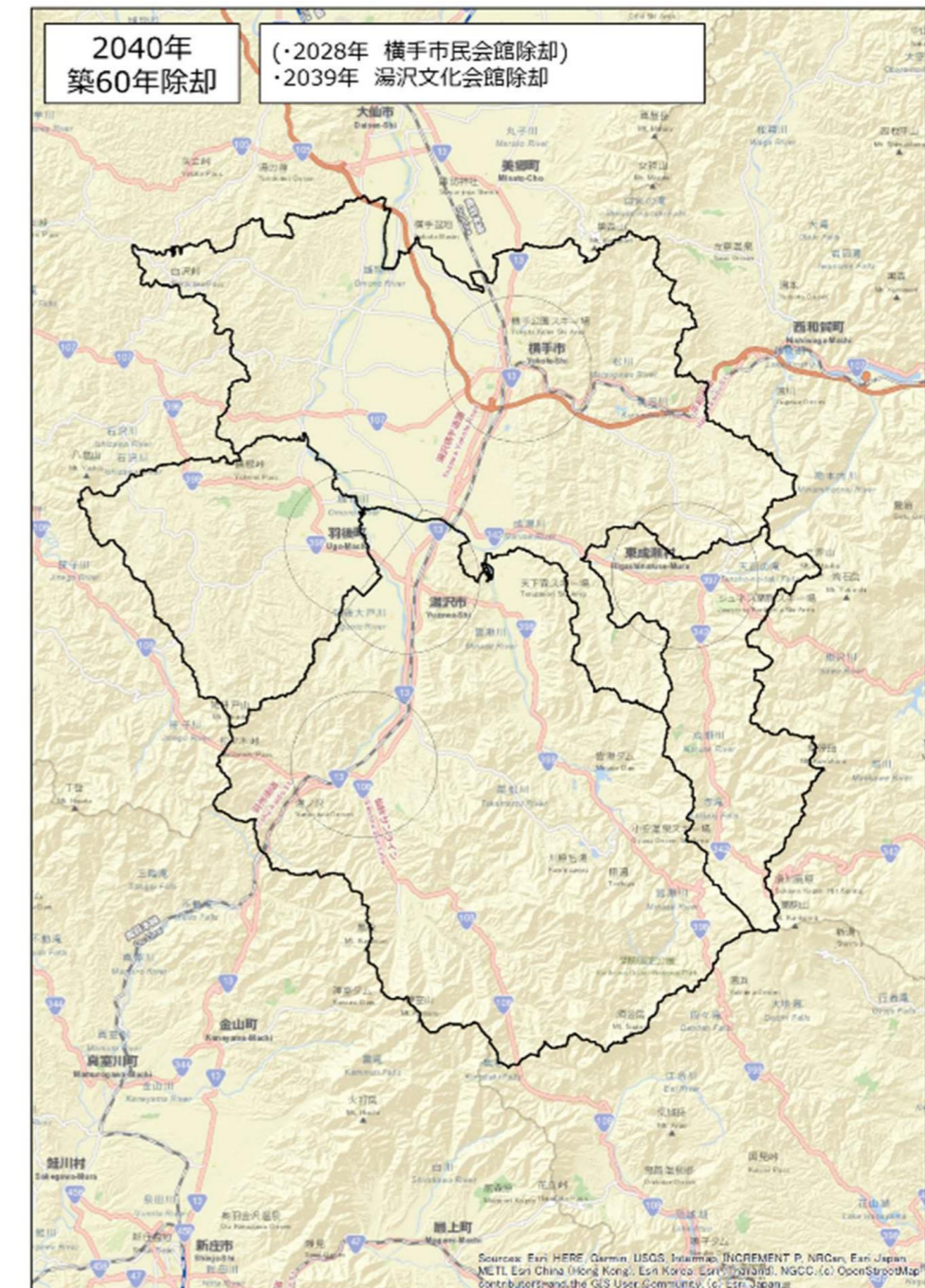
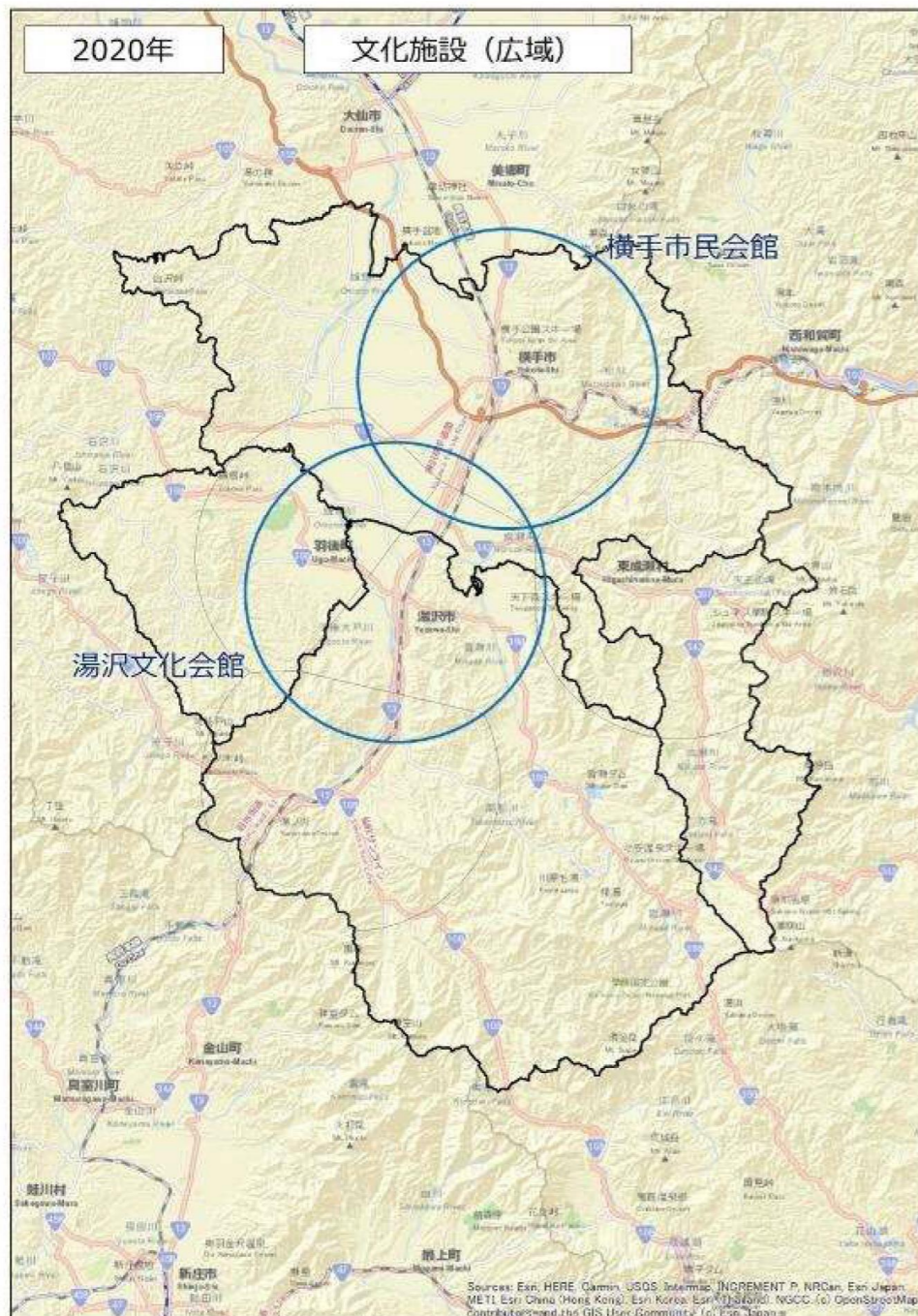
2040年時点では、4市町村内に1,000席規模の施設が存在しなくなるため、相互利用でも対応できない。

要検討課題 1,000席規模の文化施設の存続（建替え整備）

需要と供給の比較

	2020年時点		2030年時点			2040年時点		
	利用者数	対人口利用率	利用者数	2020年度利用率で積算	利用できない住民数(供給不足)	利用者数	2020年度利用率で積算	利用できない住民数(供給不足)
文化施設(広域)	180,269	0.50%	83,721	137,064	53,343	0	102,770	102,770
4市町村人口(15-74歳)	99,686		75,794			56,830		

○文化施設（広域）（商圏：10km）



質問事項に対する回答及び調査結果

1	横手市の施設がのったマップが共有できると分かりやすいです。
---	-------------------------------

(回答)

資料2として作成しました。内容については案件の中で説明いたします。

(経営企画課)

2	<p>【(第1回で) 郵送された資料3】</p> <p>年間の施設の利用人数が記載されていますが、それをもっとくわしく、施設の利用年代、利用年代における利用方法をまとめていただけると、人口減少、少子高齢化の進む今、3つの施設のうち、どの施設を優先的に変えていくと良いのか少しは明確になると思います。</p>
---	---

(回答)

各施設について、正確な年代別の利用者数の統計はありませんが、利用者層や使われ方についての概要を次にまとめました。また、資料2と資料3にマップとして共有できるようにさせていただきました。

(経営企画課、スポーツ振興課、生涯学習課)

【横手体育館】

子どもから高齢者まで、幅広い年齢層に利用されている。

一般的なスポーツ大会やスポーツイベント、日ごろの練習などに利用されている。一方、観客席数が少なく、スポーツ大会ではチームに会場への入場者数を制限しているケースもある。(潜在的な利用者あり)

また、プロレスの興行やお菓子と雑貨の販売会などの利用のほか、消防出初式や種苗交換会の会場など多目的な役割を果たしているが、夏は暑く、冬は寒いため、利用が控えられる傾向がある。(冬期間のウォーキングコースの設置などの要望も有り)

【横手市民会館】

子どもから高齢者まで、幅広い年齢層に利用されている。地域の芸術団体や教室などの発表の場、特に、中学校や高等学校の吹奏楽部の定期演奏会の会場としての利用が多い。

また、コンサートの他、戦没者追悼式や研究大会、民間企業の研究会の会場ともなっている。

【大鳥公園プール】

周辺地域の小学校や中学校、高等学校の生徒が主な利用者だった。

夏季のみの営業のため、夏休み期間中の子どもたちの遊び場、水泳の授業、高校の部活、水泳大会の開催が主な利用。

また、現在の「ホテルテトラリゾート秋田横手温泉」、当時の「かんぽの宿」にレジャープールがあり、多くの家族連れでにぎわったが、レジャーの多様化や施設の老朽化等に伴い利用者が減少し、平成7年のリニューアル時にはプールが廃止された背景もある。

大鳥公園プールの平成27年度の利用者数は2,628人。平成27年度の営業日数は45日（7/18～8/31）なので、1日当たりの平均利用者数58.4人。プール利用者の多くは近くに住む子どもたちでリピーターが多く、例えば同一人物が週1回利用したと仮定すると、1シーズンの利用実人数は409人程になる。

$$45 \text{ 日} \times 1/7 \text{ (週 1 回)} = 6.43 \Rightarrow 2628 \text{ 人} \div 6.43 \text{ 日} = 408.7 \text{ 人}$$

なお、大鳥公園プールが休止となった後、平成28年度からは市内児童の水泳大会の会場は平鹿中学校プールに会場が移っている。（H28・選手約300人）

3	<p>今回の委員会のメインテーマとして大型公共施設を3施設あげられましたが、そもそもこの「3施設だけ」の将来について議論するのはいかがでしょうか？事業規模からこの3施設が選ばれたことはわかりますが、それ以外の800施設余りの公共施設の実態についても考えていく必要があると思います。例えば、(第1回の)資料6のP13の1. 合併特例債事業の「旧環境保全センター解体事業」においても3億9828万9千円もの費用がかかっています。その他多数の公共施設の将来見込まれる解体事業も考えると沢山ありすぎて、単純に東口再開発費を除いた合併特例債の残り110億円を大型公共施設の将来に全部使いきってしまうことはできないと思います。私が住む平鹿地域でも、浅舞公園に公衆トイレ施設が3カ所もあります。普段は利用者が少ないのでそんなに必要ないのにと常々感じております。あやめ祭り等のイベント時は仮設トイレ等で十分可能なはずですが。その他、他地域でもこのような例が多数見受けられるはずですが。</p> <p>次回より近隣市町村の類似施設も合わせて検討するとのお話ですが、あらためて総合的に検討してはいかがでしょうか。</p>
---	--

(回答)

この委員会で検討する対象としては、①合併特例債を活用することができる公共施設で、②その施設規模から早急に方向性を見出すことが必要とされる施設としています。ちなみに、合併特例債の対象事業は、合併時に作成した「新市建設計画」に掲載されている事業となります。

ご質問のとおり、市内には多くの公共施設があり、FM計画を推進するためには総合的に検討することが必要です。しかし、全ての施設を対象にした場合、議論が分散してしまうことが予想されることから、合併特例債の期限を見据えた3つの施設の検討をお願いしているところです。

ただし、3つの施設の検討に当たっては、例えば、横手体育館の検討の際には、他地域にある体育館をどうするのか、市民会館では、ホール機能を有する公民館等をどうするのか、大鳥公園プールでは、市内に公共のプール施設が無くていいのか等を含めてご検討いただきたいと思います。

(財産経営課)

4	<p>1) FM計画について</p> <p>平成 28 年に制定した「FM計画」をベースにして今回の市民検討会での協議が進められるようですが、平成 28 年に制定した時には、今回の様な市民検討委員会で話し合いする場はあったのでしょうか？当時、FM計画は誰がどのようにし議論して、どうやって決まったのでしょうか？</p>
---	---

(回答)

FM計画は、市内部で検討した案を各地域の地域づくり協議会や地区会議へ説明・ヒアリングを行い、再度検討した上で内容を固めました。また、その最終案について、パブリックコメントを実施し、平成 28 年 3 月の議会への報告をもって完成した計画となっています。

(財産経営課)

5	<p>2) 市民会館について</p> <p>市民会館は、建て替えができない「維持」に分類されています。補足説明では、この再配置方針は決定でなく「一部保留」とお聞きしました。</p> <p>施設の活用実績や将来的な必要性、周辺の代替施設の有無などを総合的に判断して、平成 28 年のFM計画制定時には「維持」と判断された訳ですが、この時にどんな事が話し合われ、どんな将来展望で「維持」(一部保留)との結論になったのかの経緯をお知らせください。</p>
---	--

(回答)

市民会館については、当時も大規模施設の再編に係る様々な意見(移転、改修、建替え等)があり、FM計画策定期間としていた平成 27 年度末までの方針決定は難しいということで、判断を保留する意味も含めて「維持」としたところです。

市民会館は、市として必要な機能を有する施設であると認識しておりますので、「維持」から「長寿命化」への見直しも含めての議論も、この委員会の役割でありますので、ご意見等を頂戴できればありがたく存じます。

(財産経営課、生涯学習課)

6	<p>3) 建築費用の概算について</p> <p>建て直しをした場合の、概算の建築費について、次回お示しいただくとのことでした。同規模の施設を現在建築すればいくらか?という事でしたが、イメージしやすいように、近隣の公共施設を例に、建築費がいくらだったかについても知りたいです。</p> <p>①市民ホール文化施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北上市 さくらホール ・大仙市 大曲市民会館 ・湯沢市 湯沢文化会館 ・由利本荘市 文化交流館 カダーレ <p>②体育館、多目的施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北上市 北上総合体育館 ・由利本荘市 ナイスアリーナ ・花巻市 総合体育館+アネックス <p>③市民プール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田市 秋田県立総合プール ・美郷町 みさとプール ・花巻市 花巻市民プール
---	--

(回答)

【①市民ホール・文化施設】

施設名	事業費(建設時)	概要	現在想定
さくらホール(北上市)	75億円	H15 竣工、15093.16 m ² 大ホール 1503 席 中ホール 450 席	98.1 億円
大曲市民会館(大仙市)	35億円	H6 竣工、4489 m ² 大ホール 998 席+車いす6席 ※中ホール(480)席は別棟	29.2 億円
湯沢文化会館(湯沢市)	17.8 億円	S54 竣工、5970 m ² 大ホール 1303 席 中ホール 400 席	38.8 億円
カダーレ(由利本荘市)	76.8 億円	H23 竣工、11750 m ² 大ホール 1110 席 ※図書館やスタジオ等を含	76.4 億円

※現在想定は、平米単価を 65 万円/m²と仮定し、延べ床面積に乗じた額

文化施設は、その機能やデザインなどにより施設ごとの平米単価が大きく異なる。

【②体育館、多目的施設】

施設名	事業費(建設時)	概要	現在想定
北上総合体育館（北上市）	32.4 億円	H10 開館、7990 m ² バスケ 2 面 + 1 面 冷暖房完備	40 億円
ナイスアリーナ（由利本荘市）	84 億円	H30 開館、16966 m ² バスケ 4 面 + 1 面 冷暖房完備	84.9 億円
総合体育館（花巻市）	38.4 億円	H9 開館、8579 m ² バスケ 2 面 + 1 面 冷暖房完備	42.9 億円
総合体育館アネックス （花巻市） ※上記を一体施設で管理棟等を共有	20 億円	H23 開館、5548 m ² バスケ 2 面 冷暖房完備（床暖+エアコン）	27.8 億円

※現在想定は、平米単価を 50 万円/m²と仮定し、延べ床面積に乗じた額

【③市民プール】

施設名	事業費(建設時)	概要	現在想定
秋田県立総合プール（秋田市）	95.7 億円	H13 開館、すべて公認 50m(観客席 2000 席)、 25m、ダイビング	—
プールパークみさと（美郷町）	4 億円	H5 開館 25m、キッズプール ※市民+レジャープール	—
花巻市民プール（花巻市）	1.3 億円	S 53 開所 50m(公認)、25m	—

※各施設について、機械的な算出による現在想定は困難

(経営企画課)

7	<p>4) 利用者数の将来見込みについて</p> <p>人口減少社会の現状では、せっかく新築建て直しをしても、施設を利用し恩恵を享受する市民（住民）が減ってしまい、結果的に不要の公共施設になってしまう懸念があります。（小学校などは、まだ新しいのに廃校になる例が見られます）</p> <p>各施設の、現在の利用者数や利用団体数と、将来の利用者数等の予想（見込み）についての資料が欲しいです。</p> <p>建設費用や施設規模だけでなく、利用者数の将来動向についても合わせて検討する必要があるのではないかと思います。</p>
---	--

(回答)

各施設の利用者数等については、今回の資料3として作成しました。

また、将来の利用者予測については、横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村を広域的な視点で検討した資料がありますので、資料4として提示させていただき、案件の中で説明させていただきます。

(経営企画課)

8	<p>十文字地域の総合文化センターは、資料によれば「維持」となっていますが、10月から使用ができなくなるという話を聞きました。実際のところはどうでしょうか。</p>
---	--

(回答)

新施設に機能が集約される十文字文化センターの貸出部屋の部分（和室、談話室等）については10月末までの利用となります。トレーニング室、体育館、客席付ホールについては、令和3年3月末まで使用できますが、それ以降は建物全体が閉館となる予定です。

(経営企画課、十文字地域課)

9	その（十文字文化センターの）機能を、建て替え中の新庁舎に多目的ホールとして設けているという話も聞きましたが、こういった内容のものでしょうか。
---	--

(回答)

新施設の多目的スペースは、十文字文化センターの現機能のトレーニング室や体育館や客席ホールの機能を補完するものではなく、市主催の敬老会などのイベントや研修、選挙、酒宴を伴う会合も可能なスペースとして使用される見込みです。

現在、十文字体育館については、廃校後の十文字第二小学校の体育館に機能移転してはどうかという検討を行っていますが、ホール機能については、他の公共施設などを利用いただくということで、考えていただきたいと思います。

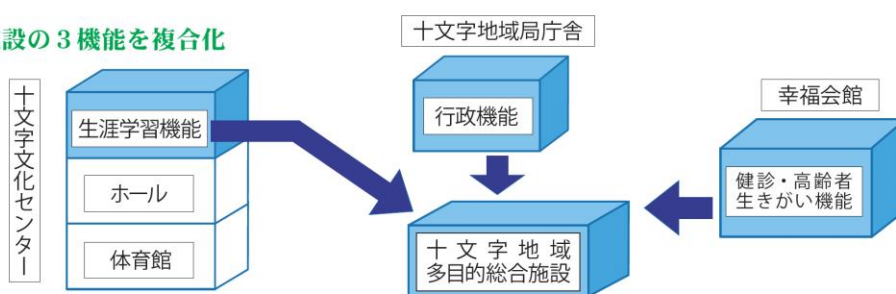
（経営企画課、十文字地域課）

(参考)

（計画敷地面積約 8,600㎡、施設延床面積約 2,200㎡、鉄骨造平屋建て）

- ①生涯学習機能 → 市民の生涯学習等の場（和・洋室、調理実習室）
- ②健診機能 → 市民の健康診断、乳幼児健診等の場（健診スペース）
- ③市民交流機能 → 各種団体等の会議等の場、市民が利用できる展示コーナー
- ④行政機能 → 十文字地域行政サービスの拠点（十文字地域局事務スペース）
- ⑤地域防災機能 → 防災資機材の備蓄、災害発生時の地域対策本部・避難所

◆既存施設の3機能を複合化



◆十文字地域多目的総合施設



H30.8 じゅうもんじ地域局だより

10	増田地域のまんが美術館、平鹿地域の浅舞公民館には 400～500 人規模のホールがありますが、他の地域はどうでしょうか。
----	--

(回答)

一般的なホールの形状をした中・小規模ホールは次のとおりです。雄物川地域、大森地域、山内地域、大雄地域にはありません。

資料2で配置を確認できるようにまとめております。

横手地域：かまくら館（346 席）

増田地域：増田まんが美術館（500 席）

平鹿地域：浅舞公民館（350 席）

十文字地域：十文字文化センター（352 席）

（経営企画課、生涯学習課）

11	大鳥公園プールの新たな建設地について まったく新たな土地に建設したときの費用と、横手体育館と複合して建設したときの費用のどちらの効率が良いか。
----	--

(回答)

具体的な建設費については、まだ想定できませんが、ご質問の効率性については、横手体育館とプールを別々に建てた場合と、複合して建てた場合では、管理棟や一部諸室を共有するなどの観点から、複合化したときの費用の方が、効率が良いと考えられます。

ただ、近年の状況をみますと、通年利用できる屋内プールが整備される傾向にあり、使用期間が1～2か月ほどに限定される屋外プールについては、先行事例が乏しい状況です。

（経営企画課）

12	今の施設を同規模で建て替えるとした場合、どのくらいの費用がかかりますか。
----	--------------------------------------

(回答)

6番の質問で使用した「現在想定」の考え方を使得って仮定すると、次のようになります。(それぞれの平米単価は近隣の建設事例をもとに算出したもの。消費税増税の影響や、資材や労務単価の上昇等の影響は考慮していない。)

プールについては、通年利用できる屋内プールが整備される傾向にあり、屋外プールの先行事例が乏しい状況です。

関連事業者に伺ったところ、現在の大鳥公園プールと同規模の屋外プールを整備するとした場合、10～15億円程度ではないかとの見立てがありました。

既存の施設を同じ規模で建て替えた場合 (仮定)

横手体育館 22.6億円 (4,519.75㎡×50万円/㎡)

※観客席不足の課題等を解決しない場合

横手市民会館 20.7億円 (3,182.025㎡×65万円/㎡)

大鳥公園プール 10～15億円

※これを屋内温水プールとした場合は30～40億円と見込まれる

質問用紙

（第2回 横手市公共施設再編に関する市民検討委員会）

会議中に聞けなかったことや、後で気になったことがあればお寄せください

委員氏名： _____

区分	質問内容等
(記入例) 資料1、資料3	(記入例) 現在の横手体育館2階に観客席を増設することは、 技術的に可能ですか。

この資料は
第3回に配付予定です

- 受付期限 令和2年7月7日（火）
- 質問方法 次のいずれかの方法で提出ください。
 - ① 本日の会議終了時に事務局あてに提出
 - ② メールで送付
必要事項があれば、この用紙でなくても構いません。
電子メール：kikaku@city.yokote.lg.jp
 - ③ ファクスで送信
ファクス番号：0182-33-6061
 - ④ 経営企画課または最寄りの地域局に持参または郵送
横手市中央町8番2号 横手市役所本庁舎3階